



新板
集入

唐書話
世

^ 13
3200
4



唐士真話卷之四

月詠

第八回

郭挺之父子は時を進まはしむるもの

房中の同言を以て其類を為す様乃名
郭の從後符と今に遺腹の兒

第九回

郭挺之郭祥と推して廣州小陽のり

孝感終小貴人の妻とあり
貞操視り其子に母たる妻と感をも

江南に因人と依けて切に命を全するもの

大敵の舊書と唱ふ鐘祥乃念
後善の余慶あり下

昭和九年十月一日

尾山
加

郭挺之

郭挺之父子は時を進まはしむるもの

郭挺之郭祥と推して廣州小陽のり

孝感終小貴人の妻とあり

貞操視り其子に母たる妻と感をも

江南に因人と依けて切に命を全するもの

大敵の舊書と唱ふ鐘祥乃念

後善の余慶あり下

郭挺之郭祥と推して廣州小陽のり

孝感終小貴人の妻とあり

貞操視り其子に母たる妻と感をも

唐士

月

詠

卷

之

子と親の間に
 親の道に
 子も右に
 友縁のつら
 さあしん
 うほべー



子と親の間に

親の道に

子も右に

友縁のつら

さあしん

うほべー

子と親の間に

親の道に

子も右に

友縁のつら

さあしん

うほべー



子どもありする
七多の母子あり

大賢人と成

母れ教よ

故なり女乃

探とせきとせきま

難ても子ども切に

有して愛され

何んやうよ

い

不幸ありしは幼少にして謝罪するやうにきたるはひきしてこれ
 一守美名をたてせにとうらひのてびすこくまはうとてんこ
 しどもひきまをせ死し嗣ありて復たのふ者と知るゝあのみま
 らうはあまらうとていしあを母愛能てせんはあてな
 感てあまらうとてあを母愛能てせんはあてな
 全衆ありては父も母もきりかたしきりかたしきりかたし
 うはあまらうとていしあを母愛能てせんはあてな
 ひととあまらうとていしあを母愛能てせんはあてな
 こゝろとあまらうとていしあを母愛能てせんはあてな
 してあまらうとていしあを母愛能てせんはあてな
 すてあまらうとていしあを母愛能てせんはあてな

子どもあつち

七多の母子あ

金一五子れ

大賢人と成

りも母れ教よ

り一故なり女乃

操をきくもま

難ても子と人切

りて愛され果

りんやうよ育

り一海べ



不幸ありしはお伏して謝罪するやうにききたるひあつち

一は美名をいせにむらむらあつちのびすこもあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

りもあつちを死し嗣直して後々のあつちあつち

なるも今年来まほはるるにびく持の國本を變葬せたるはまじしことのみ
 らしの御心ともおぼふ事なきにせしめてはたむかひておせしむ
 ともあはれはるるに際しむてはまじし事なきにせしめてはたむかひて
 備へるる事なきにせしむてはまじし事なきにせしめてはたむかひて
 しのしむる事なきにせしむてはまじし事なきにせしめてはたむかひて
 とてはまじし事なきにせしむてはまじし事なきにせしめてはたむかひて
 ともあはれはるるに際しむてはまじし事なきにせしめてはたむかひて
 わかまじし事なきにせしむてはまじし事なきにせしめてはたむかひて
 ともあはれはるるに際しむてはまじし事なきにせしめてはたむかひて
 持領とて領命はるるに後延保小まてともはるるに甲たともはるるに
 保領のいれはるるに中まてはるるに小まてともはるるに甲たともはるるに



多何さるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 みまひてさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 わせはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ともあはれはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 郭校と郭校と撰てはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ともあはれはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ともあはれはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ともあはれはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ともあはれはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ともあはれはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ともあはれはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ともあはれはるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに



因人と地きさる
 はまらうて神明
 子とまはる
 脚へ天と地い
 ありあかたの祭

おはるのむらさきの...
 ちよとて...
 その例...
 こゝろ...
 あせ...
 多...
 例...
 申...
 ろ...
 あ...
 の...

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

ふみの海道の情状のぞいものぶらりたるはしる事
小元すじ家序よりやきく用やあひまもつとせ
は遠城もつひるるるるるるるるるるるるるるる
るりるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
はるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あはるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
へとあつたつたつたつたつたつたつたつたつた

巻之四終

一 敵討云抄

信入 全部五冊

中大近代方くもあつたりたおの武道は
中もあつたつたつたつたつたつたつたつたつた

天地人の間一切あつた事国字分りて

博物筌

全部一冊或七冊出来

事理詳小由来年数等即時に見る書也

天地日月風雲雪霜の理を説國郡山川来
曆と記一年々々長曆并註日和降晴御武鑑
年中行事神社佛閣神秘縁起諸職諸藝流
義始末佛家十宗の起并流派公家武家学
者歌道有職僧尼隱士雅楽申樂茶道能筆
画工都和漢名譽人物妙藻妙術秘傳金石
草木器物等出所異名和漢年号年数等記

